

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	香寿庵独自の理念があり、いつでも見れるようフロアに掲示し理念を共有。またCW会議でも理念に基づいて話をしていく。	ホーム独自の理念をフロア内に掲示され、理念を共有されています。又、会議などでも理念を基に話し合われています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前までは地域での畑の利用・買物・外食・地域の祭り・盆踊り等参加していたがコロナ禍になり地域との交流が一旦休止となった。休止が解除になれば交流を図る予定。	コロナ禍で地域との付き合いは少なくなっている。現在は3カ月に1回は外注を頼み地域との付き合いを途切れしないようにされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前までは法人主催の餅つき等の行事や安心・安全・声掛け訓練を行い認知症の方の理解や支援方法を地域の人々に向けて取り組んでいたがコロナ禍になり実施が出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回第四土曜日に会議実施。ご利用者の日常生活の様子、サービス内容、リスク、研修内容を伝えていく。質問等もあり意見交換を行っている。	2カ月に1回開催され、家族や老人会の代表の方、地域包括の職員の方が参加され、ホームの状況などを話され、意見や情報はサービスの向上に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村との連携では加算関係や経営面で分からない時は相談しアドバイスを頂いたりしている。包括の職員に運営推進会議に参加して頂いている。	市の職員とは電話などで相談し、アドバイスを頂き、サービスの向上に努められています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	法人では身体拘束廃止宣言をしており、身体拘束委員会を発足させ身体拘束廃止宣言を行うポスターを掲示。今までに拘束の事例なし。玄関は日中は鍵をせず自由に出入り可能。(9時～17時30)	玄関は時間を決めてはいるが施錠せず、身体拘束のマニュアルもあります。又、法人内の研修に参加され、周知徹底を図られています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が実施している研修に参加。また2ヶ月に1回虐待の芽チェックリストを実施。自分自身のケアを振り返りCW会議で話し合い言葉の虐待が無いように努めている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し今後必要とされるご家族に説明していただけるように支援している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時又は解約時にご家族に十分に説明を図り実施している。改定の際の変更等があればご家族に説明と同意書を交付し対応している。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情BOXの設置と、ご利用者・ご家族と会話の機会を多く持ち会話の中で様々な意見や不安なこと疑問に思っていることを聞き出しCW会議や運営推進会議で反映させている。	苦情BOXを設置したり、面会時や電話などで積極的に意見や要望を聞かれています。そこで出た意見や要望を運営に反映されています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	管理者はCW会議や直接職員と情報共有し意見や提案を聞くように努めて反映できるように努めている。また代表者は、連携会議等を通して参加している職員の意見等を聞く機会を設け反映している。	月に1回のCW会議で意見や提案を聞く機会をもたれています。又、日頃から何でも話せる関係作りがされており、日常的に意見が出されています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員のやりがいに繋がるよう職員の努力や評価できる機会を設けている。またCW会議で職員の意見を吸い上げ下さっている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日本認知症グループホーム協会や行政からの研修に参加して働きながらトレーニングができるように努め各資格を取得できるようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症グループホーム協会主催のグループホーム全国大会に参加し同業者の取り組みを視聴したり、WEB研修で同業者と交流しサービスの質の向上に努めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されたご利用者は環境の変化に不安を感じられることが多い為、声掛けや寄り添い傾聴し安心して頂けるよう努めている。またアセスメントシートに記入している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時や入所時に色々な説明を行っている。ご利用者の生活の様子や状況を小まめに情報共有し安心した生活に繋げ信頼関係にも努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご利用者のリスクを把握しご家族のお話も聞き必要としている支援を見極めている。そして入所時にも観察しご家族と情報共有を行いながら更に支援を見極めるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と食事準備・お掃除等役割を持って頂き、レクリエーションの参加を通して一緒に過ごし支え合う関係を築いている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こちらにお任せではなくご利用者の安心した生活を築く為にはご家族の協力が必要であることはお伝えしている。受診はご家族であったりご利用者がご家族とお話されたい希望があればご連絡しお話をさせて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方を連絡を取り合っておられたり、窓越しでの面会やZoomでの面会でご家族やご親戚といった方がコロナ禍であつても途切れることなく築けている。	知人や家族の方がホームに来られ、窓越しの面会やZoomでの面会をされたり、電話やはがきを出されています。又、法人のデイサービスに知人が来られている時は会いに行ったりと馴染みの人との関係をもたれています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	計算問題や字合わせ等個別レクリエーションを実施の際、1人でするのではなく職員がご利用者同士繋ぎ合わせ会話をしながら一緒に力を合わせながら取り組んで頂く環境に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたご利用者の面会や入院し退所されても退院後の行先（住まい）のフォローをご家族と情報共有を行いながら実施している。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者に安心して生活を送って頂く為に、できる事できない事の把握、またお話の中での希望や思いを探って感じ取りCW会議にて検討している。	入所時にご本人とご家族の希望や意向を把握されています。又、日常の会話などでも意向の確認を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所前に面談を実施している。その際に生活歴やこれまでのサービス利用を把握しアセスメントシートに記載し職員間で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を記入し、一人ひとりの心身の状態を見極め、総合的に把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の近況報告を電話か面会時で伝え、ケアプランの変更・更新時はご家族も交え職員共にケアの在り方について話し合っている。また医療的ケアについてはDrも参加し現状に即した介護計画を作成できるよう努力している。	2、3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っていますが、状態の変化によってその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。又、話し合いにはご家族の意見を聞いたり、法人内のDrにも意見を聞かれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を取り入れて日々の様子を記入。また、D-5シートに気づきを書く事により介護計画の見直しや情報の共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的低下や認知症が進行しても、少しでも香寿庵で生活を希望されているご家族のニーズに添えるようサービスを考え取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園の散歩や地域での買い物を実施している。コロナ禍になってからは一旦休止している。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を本人・ご家族が希望されている場合はご家族で受診して頂いている。分からないことがあればかかりつけ医に相談している。緊急時等は特養併設の診療所で適切な医療を受けておられる。	特養併設の診療所Drの往診があり何かあればすぐ対応しておられます。また、認知症専門医が往診していただいているのでより専門的で質の高いケアを実施されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎日のバイタル測定や様子観察で体調の変化があれば特養併設の診療所看護師に相談して頂き適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は、面会や電話で病院の相談員や看護師と情報共有し安心して治療ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族と話し合いを行い、意向をお聞きしながらケアを実施しているが、重度化の度合いによっては他の選択肢として特養の申し込みを伝え、特養入所で退所になる場合もあり。	ご家族様と随時話し合いながら、ご利用者の日々の身体状況に応じた寄り添ったケアの実施をされております。身体状況の重度化に対してもいろいろな選択肢を提供、支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルも備えており、CW会議等でも話合っている。また法人の勉強会にも参加。消防署主催の救命救急の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養の職員と共に避難訓練を年2回実施。災害マニュアルも備えているが地域との協力体制までは取り組めていない。	避難訓練の実施から学びマニュアル作成し、特養併設の強みを生かしながら災害に見舞われた際にも助け合い協力体制が整っておられます。	ホーム全体で災害が起きた際、併設の強みが生かせない場合の想定も視野にいれ、最低限のスタッフ人数での避難訓練実施または話し合いを設け、各スタッフの意識向上に期待しています。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人内で人格や尊厳の研修があり参加。またCW会議でも話し合いを行い尊厳・言葉遣いに気を付けるように話しあっている。また2ヶ月に1回虐待の芽チェックリストを実施し自分自身の対応を振り返り自己覚知に努めている。</p>	<p>2ヶ月に1回虐待の芽チェックリストを実施、CW会議で話し合いにより、自己意識の明白化のより各スタッフ常日頃から尊厳、言葉使いや支援に気を付けておられています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>家事やレクリエーションの参加の有無をお聞きしご本人に決めて頂くように努めている。自己決定が難しい方はお話の傾聴等で希望を察するように働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日ご利用者のペースに合わせて支援を希望も伺いながら生活して頂いている。特に排泄・入浴・食事は注意している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご利用者をご自分で服を選ばれる方もいらっしゃれば、職員と一緒に選ぶ方のいらっしゃる。コーディネートがおかしい場合は、尊厳を傷つけないように着替えて頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎食、職員とお話をしながら食事を楽しまれている。食べにくい具材等があれば一口に切らせて頂いたり細かくさせて頂いている。食事前はテーブル拭き・トレイ拭き・盛り付けを職員と一緒に実施している。</p>	<p>ご利用者の皆さんとできる限り一緒に準備をされたり食事をされています。また、好きなものを外注し普段とは違った楽しみ方を実施されたり、ご利用者の誕生日の際はおやつ作りをして、お祝いをして皆さんで楽しまれています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスは管理栄養士作成の献立で給食から取り寄せ、毎食後食べた量・水分量のチェックを行い一人ひとりの状態を考えて支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>朝食後・夕食後に口腔ケアをしており、できないご利用者に関しては職員が声掛けや介助を行う。異常があれば歯科受診をしている。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記入しご利用者の排泄パターンを掴み、誘導や声掛けを行っている。CW会議にて、ご利用者の排泄支援方法を検討したりリハビリパンツやパットを見直しもを行っている。	ご利用者一人一人の排泄パターンをチェック、把握し支援することで、自己排泄能力アップを視野に入れながら個々にあった排泄方法を常に検討実施されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操や階段昇降等を行い便秘の予防に取り組んでいる。それでも排便が無い場合はDr指示のもと下剤を服用されている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴支援を実施。必要に応じてシャワー浴もあり。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯を行ったり入浴剤を入れて入浴を楽しんで頂けるよう努めている。入浴拒否があれば次の日に入浴できるような環境にしている。	週2回の入浴実施と要望や疾患等に応じ対応されています。また入浴剤などで入浴を楽しんでいただけるよう支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の声掛けを行い安心して休んで頂ける支援を行っている。不安で眠れないご利用者には話の傾聴を行い安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や容量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルにご利用者が服用されている薬の薬情を挟んでいる。またカードックスにも服用されている薬を記入し把握に努めている。新しい薬を服用して頂く場合は症状の変化を確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族やご利用者から趣味等を聞かせて頂いている。縫い物や家事やスポーツ等ご利用者に合った楽しみ事をして頂いている。不穏や不安になられたご利用者には散歩等を行い気分転換の支援をしている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	帰宅願望のご利用者には散歩や買い物を一緒に行っている。またご家族と外食やお墓参り、親戚の家に行かれたりされていた。コロナ禍になってからは外出は控えている。	コロナ禍で外出ができない中でも、法人敷地内を散歩されたり、外に出る機会を作られています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	香寿庵としてはご利用者の現金所持は控えて頂いている。どうしても必要な場合はご家族と一緒に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人から電話の希望があれば電話でお話して頂いている。手紙も送られてきた場合は本人にお渡ししお礼の電話をされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに小物やお花を置く事によって家庭的な雰囲気になるように努めている。ソファもありTVを見ながら談笑しゆったりと過ごされている。	リビングにはソファがありゆったりと過ごせる空間があり、窓からは自然と日光がはいりゆったりとした雰囲気です。またご利用者が作った作品や季節にちなんだものなど飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身の席を確保しつつ、ソファへの移動を可能として気の合う方と話せる空間を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お家で使用されているタンス・イス・写真・置物を置いて頂いている。居室でも家に居るような空間になるように努めている。過去には仏壇や化粧台を置かれていた方もいた。	ご利用者の使い慣れた物を使用させていただくことで安心して居心地よく過ごしていただけるよう支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	香寿庵内では自立した生活を送れるように手すりを設置している。一時的に車椅子が必要になっても併設している特養のエレベーターを使用。できるだけ香寿庵で自立した生活ができるように支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない